

月間報告書 2022年9月分

学籍番号 留学先 オックスフォード・ブルックス大学
 氏名 留学期間 2022/09/20～2023/09/19
 年次 4年次 留学区分 派遣留学

I. 受講時間数

No	履修科目(原語名)	履修科目(日本語名)	受講時間数(分)	授業形態
1	GEOG4001 Intro to Human Geography	GEOG4001 人文地理学入門	180	授業
2	LANG5004 Analysing English Language	LANG5004 英語の分析	120	授業
3	HIST5020 The Making of Modern Britain	HIST5020 近代英国の形成	120	授業
4	HIST4010 A People's History of Britain	HIST4010 英国の民衆の歴史	180	授業

II. 授業内容

No. 1

人文地理学の入門の授業になります。

地理という名前がついていますが、文化や歴史、政治など人間生活を取り巻く環境、地域を含めた多くのことを学びます。

イギリスでの授業ということで、特にヨーロッパ関連のトピックが多く出てくるように感じました。

例えば、ソ連崩壊やベルリンの壁の崩壊、さらにはロシア・ウクライナ戦争に関するトピックも出てきます。

基本的には講義の形ですが、周りの生徒とのディスカッションをする時間もあります。

地理や社会の授業が好き方にはオススメですと思います。

No. 2

英語の全体的な分析をする授業です。

今まで、文法やそして文章や文脈の持つ意味を授業内で分析をしました。

そして、Sociolectといった一定の集団内で話される言葉の分析等も行います。

基本的には、英語が母語の学生が多く、英語が第二言語の学生は自分を含めても2人しかいないので苦労しています。

特にネイティブの視点での分析なので、難易度は高めです。

しかし、英語が母語の学生が多い中での英語・言語学の授業なので、英語力向上にはもってこいだと感じます。

No. 3

近代英国の歴史の授業です。

授業の半分が講義、その後、課題等をベースにディスカッションをするという形を取っていました。

今まで授業で見た内容としては、近代英国における家族やコミュニティの形成、そしてRough Musicといったコミュニティで行われていたイベントについて学びました。

授業が5000番台ということもあり、周りは2回生がほとんどです。

知識を既にある程度持った学生が多いこともあり、難しいと感じました。

No. 4

英国の主に民衆の歴史に焦点を当てた授業です。

日本にいるときの英国のイメージといえば王室というイメージが非常に強かったです。

しかし、民衆の歴史が存在していたのも事実であり、授業を通して英国の民衆の歴史に触れるのは非常に新鮮な体験だと思います。

第一回目の授業では、いつ「英国らしさ」が生まれたかという部分に焦点を当てました。

留学生も多く、また、講義の時間もありますが、しっかりとグループでのディスカッションといったアクティビティの時間が取られているので楽しめる授業だと思います。

III. 生活編

1. 出国前にすべきこと

二学期間勉強をする場合は、Student VISAを申請して入国することになります。

VISAセンターに行つて出願をすることになりますが、Unconditional Offerと一緒にVISA申請に必要なCASナンバーが届いてから申請することになります。

出国までにVISAが届かなかつたという話をよく聞いているので、できる限り受け取つたら早めに申請することをオススメします。

加えて、クレジットカードを複数持つこと、また利用限度額の引き上げは必須だと思います。

タクシーや一部飲食店等を除いて、基本的にはほとんどカードで支払うことになると思います。Apple PayやGoogle Payで支払えるとより便利だと思います。

2. 入国

私はカタール航空を利用して、カタールで乗り換えてイギリスに入国しました。

ヒースロー空港ですが、日本のパスポートを保持していれば、優遇措置が取られるのでかなりスムーズに入国できます。

そして、空港からオックスフォードまでですが、バスが一番安いと思います。20ポンド程だったと思います。

月間報告書 2022年9月分

学籍番号	留学先	オックスフォード・ブルックス大学	
氏名	留学期間	2022/09/20～2023/09/19	
年次	4年次	留学区分	派遣留学

I. 受講時間数

ただ、寮までは別のバスに乗り換える、もしくは歩くことになるので、荷物が多い場合は高いですが、タクシーを使うという方法もあります。

3. 入国後一週間

入国後10日以内にまずしなくてはいけないことはBRPをもらうことです。

日本のパスポートを持っている場合、優遇されるので、通常VISAのページに押されるはずのスタンプが押されていない状態で入国することになります。

そのため、入国日を証明するために、パスポートやBRP受け取り場所の証明書以外にEチケットを必ず手元に持っておくようにしてください。

4. 寮

私はPaul Kent Hallという寮に住んでいます、キャンパスから少し離れています。

しかし、買い物をする場所が近所にあるので、学校近辺の寮よりも生活面においては便利だと思います。

また、Paul Kent Hallの前に学校の外部の団体が経営しているParade Greenという寮があります。

友人が住んでいるので、何度か行ったことがあります、コンビニがあることや、中に運動場があること、さらに自習室といった施設も充実しています。

このエリアに住むのであれば、Parade Greenの方がより充実した生活を送ることができると思います。

そして、学校の近くで多くの学生が住んでいるClive Boothという寮もあります。

近くに買い物に行く場所があまりないのが少し欠点だと思いますが、とても大きな寮ではあります。

Clive BoothにはUndergraduateの寮とPostgraduateの寮があり、二学期間留学でなおかつ21歳以上であればPostgraduateの方に住むことができます。

5. オリエンテーション及び履修登録について

到着後、アカデミックアドバイザーからオリエンテーションという形で授業などの説明があります。日本語を喋れるアカデミックアドバイザーだったので、多くのことを言語の壁を気にせず聞くことができました。履修登録については、交換留学なので、学部に入ることはありません。なので、様々な学部の授業を好きなように4-5個選ぶことができます。留学前にすでに申請して渡航するという形なので、決まっていると思いますが、授業開始前の所定の期間であれば変更が効きます。履修する上で注意してほしいのは、日本と同様に授業が被らないということです。履修の際に見る授業リストが非常に見づらいので、注意してください。そして、最後に一番注意してほしいのがキャンパスです。ブルックスにはたくさんキャンパスがあり、一番使われているのはメインのHeadington、そして次にHarcourt Hillです。ほとんどの授業はHeadingtonだと思いますが、外大生が興味を持ちそうな教育、英語、言語学、コミュニケーションといった授業はHarcourt Hillキャンパスで行われる場合がほとんどです。多くの寮があるエリア、またHeadingtonキャンパスからも離れていて、行くまでに時間がかかります。こういった科目を主に勉強する予定であれば、あらかじめ時間割、そして可能であれば住む寮についても考える必要があります。

月間報告書 2022年10月分

学籍番号 留学先 オックスフォード・ブルックス大学
 氏名 留学期間 2022/09/20～2023/09/19
 年次 4年次 留学区分 派遣留学

I. 受講時間数

No	履修科目(原語名)	履修科目(日本語名)	受講時間数(分)	授業形態
1	GEOG4001 Intro to Human Geography	GEOG4001 人文地理学入門	900	授業
2	LANG5004 Analysing English Language	LANG5004 英語の分析	480	授業
3	HIST5020 The Making of Modern Britain	HIST5020 近代英国の形成	480	授業
4	HIST4010 A People's History of Britain	HIST4010 英国の民衆の歴史	720	授業

II. 授業内容

No. 1

今月に入り、講師の先生が変わりました。
 一つの授業ですが、学期内で何度か先生が変わるので、専門の違う先生の授業を受けることができます。
 内容に関しては、今月は政治的な内容から、自然、そしてSDGsといった毎回違うトピックを授業で扱っていました。
 時事問題も多く扱うので、過去と現代を結びつけながら、学ぶことができます。
 改めて地理の扱うトピックの広さを感じながらも、毎回違う内容を扱っているので、自分の知識を広げることができていると実感しています。
 授業時間が3時間と非常に長いですが、講義以外にGoogle Mapを使ったアクティビティやディスカッションの時間も設けられていたので、楽しむことができました。

No. 2

今月に入り、実際のテキストを用いた文章の分析が始まりました。
 誰が誰に発信しているか、どういった意図を持って語彙の選択をしているかといったアプローチを用いて文章の分析を行います。
 今月は、レシピといった手順を示すテキストを用いた分析を行い、文書内の命令形の数など細かい点まで分析をします。
 また、実際に学生が書いた文章の分析も授業内で行いました。
 自分も外大のAcademic Writingで書いたエッセイを授業に持ち込んで、現地の学生に分析してもらいました。
 語彙選択といった普段あまり意識していない部分を互いに分析し合うことで、より英語のみならず言語全体の知識が広がっていると感じます。
 そして、驚くことに、授業内で日本語を使う機会もあります。
 日本人の学生は自分しかいませんが、授業の先生が過去に日本で英語を教えていたということで、英語との多くの違いを持つ言語の例として日本語を多く使用しているように感じます。
 現地の日本語を勉強している学生も複数人クラスにいますので、日本語と英語の比較を常に行うことができ、より自分にとっても授業の深い理解に繋がっていると感じます。

No. 3

今月に入り、中間エッセイの提出がありました。
 内容は授業と同様に、1660年から1918年間のイギリスの家族関係についてでした。
 家族に関わることであれば、自由にトピックを選べるという形をとっていました。
 参考文献に用いる書籍も、先生からReading Listが配られているので、比較的スムーズにリサーチを進めることができました。
 しかし、エッセイを書く上での引用の方法が、外大で行っていたAPAではなくChicago Styleだったので、苦勞しました。
 OBUでは、エッセイ講座等も開かれているようなので、書く前に利用すべきだったと後悔しました。
 ただ良かった点として、中間課題に考慮して、先生とエッセイについて相談することができるチュートリアルの授業が設けられているので、不明点については先生に質問することができました。

No. 4

今月の授業では、昔のファッションや実際に生活で使われていたもの、そして買い物といったアクティビティから人々の生活を知ることにより主に焦点を当てていました。
 我々が比較的身近に感じる事柄から歴史を知るというアプローチを取っていたので、とても楽しんで学ぶことができました。
 また、授業内では、昔の広告を参考に、実際にGoogle Slideでグループプロジェクトとして授業内で自分たちの広告を作るといったアクティビティもありました。
 自分たちのグループは1800年代のビールの広告に注目して、当時どのようにビールが売られていたかといったことを分析して、広告を作成しました。
 留学生も多くいる授業なので、先生も考慮して授業を進めてくれているので、非常にリラックスして学ぶことができます。

III. 生活編

10月はハロウィンがあったため、パーティーが多くありました。
 学期も中間に近づくにつれて、課題の提出が近づいてきていて忙しい中でも、楽しむことができました。
 また、ロンドンにも今月は2回行きました。

月間報告書 2022年10月分

学籍番号	留学先	オックスフォード・ブルックス大学
氏名	留学期間	2022/09/20～2023/09/19
年次 4年次	留学区分	派遣留学

I. 受講時間数

往復16ポンドで、2時間あればロンドンの街中にバスで行くことができます。

オックスフォードもかなり充実している街ですが、やはりロンドンに比べると小さく感じます。

しかし、ロンドンには危ない部分もあり、友だちがスリにあってしまったので、気をつけたいと感じました。

こういった点においては、オックスフォードは比較的治安がいいので過ごしやすい街だと改めて感じました。

ハロウィンも終わり、11月は中間課題の提出が多いので、引き続き頑張りたいと思います。

月間報告書 2022年11月分

学籍番号 留学先 オックスフォード・ブルックス大学
 氏名 留学期間 2022/09/20～2023/09/19
 年次 4年次 留学区分 派遣留学

I. 受講時間数

No	履修科目(原語名)	履修科目(日本語名)	受講時間数(分)	授業形態
1	GEOG4001 Intro to Human Geography	GEOG4001 人文地理学入門	720	授業
2	LANG5004 Analysing English Language	LANG5004 英語の分析	600	授業
3	HIST5020 The Making of Modern Britain	HIST5020 近代英国の形成	480	授業
4	HIST4010 A People's History of Britain	HIST4010 英国の民衆の歴史	720	授業

II. 授業内容

No. 1

今月は、中間課題があり、グループプレゼンテーションを行いました。
 一つの場所を選び、その場所の持つ国際的関係を分析するというとても広いテーマだったおかげで、トピックは比較的スムーズに選ぶことができました。
 しかし、イギリスで行う初めてのグループ活動だったので苦労した場面もありました。
 外大で特に自分でも力を入れていたのがプレゼンテーションでしたが、こういった新しい環境で行うプレゼンテーションは自分にとってもよい刺激となりました。
 スムーズに行かなかった部分もありましたが、自分がリーダーとなり、最後の発表まで持っていくことができたので、よかったですと感じます。

No. 2

先月同様、今月も実際のテキストを用いた言語学的分析を引き続き行いました。
 ミネラルウォーターのパッケージやお菓子のパッケージといった身近なものから分析を行い、説明をしてくれるので非常に分かりやすく、外大同様に少人数のクラスなので質問もしやすい環境です。
 また、過去の受講生にThe Sunといったメディアの分野で就職をした方がいると聞いて、改めて言語学の可能性の広さを知るとともに、我々の日常でも言語学が生きているということを感じました。

No. 3

今月も、過去のイギリスにおける家族関係が主な焦点でした。
 この家族関係の理解を深めるために、ブレナム宮殿でのフィールドワークが行われました。
 ブレナム宮殿はオックスフォード近郊にある宮殿で、イギリスの元首相のウィンストン・チャーチル氏が生まれた場所です。
 また、チャーチル氏の先祖が代々住んでいた場所でもあり、歴史のある場所でもあります。
 このフィールドワークでは主に上流階級の生活様式や生活用具に注目し、どのような生活を行っていたかということを分析しました。
 この活動を通して、より過去の家族関係への理解が深まりました。

No. 4

今月に入り、中間課題の提出がありました。
 とても個性的な課題で、1650年から1920年にかけての実際の事件、出来事、社会情勢を参考に、自分自身のフィクションの物語を作成するというものでした。
 当時書かれたかのように物語を作成する必要があり、多くのリサーチをすることが求められました。
 とても難しい課題でしたが、授業内でもワークショップがあり、質問時間も十分に設けられていたため、安心して作業をすることができました。

III. 生活編

11月に入り、寒くなりましたが、クリスマスに近づくにつれて、オックスフォードの街中のライトアップも始まり、非常に綺麗になりました。
 今月も勉強が忙しかったですが、ISATと呼ばれるこちらの国際部主催のデイトリップに参加し、パースとストーンヘンジに行ってきました。
 デイトリップは交通費、ツアー費込みで、目的地によっては自由時間も確保されています。
 個人で行くよりも比較的安く行くことができるので、オススメです。
 また、もう一つISAT主催のプログラムでGlobal Buddiesというものがあります。
 現地の2年生以上の学生一人と、複数の留学生でグループを組むというプログラムです。
 世界中の留学生と仲良くなれるだけでなく、留学生としての悩みを話すこともできるので、渡航前にぜひ参加してみてください。
 自分のグループは非常に活発で、レストランやパブでよく集まって遊んでいます。Global Buddiesのおかげで、よりオックスフォードでの生活が豊かになっていると感じています。

月間報告書 2022年12月分

学籍番号 留学先 オックスフォード・ブルックス大学
 氏名 留学期間 2022/09/20～2023/09/19
 年次 4年次 留学区分 派遣留学

I. 受講時間数

No	履修科目(原語名)	履修科目(日本語名)	受講時間数(分)	授業形態
1	GEOG4001 Intro to Human Geography	GEOG4001 人文地理学入門	360	授業
2	LANG5004 Analysing English Language	LANG5004 英語の分析	240	授業
3	HIST5020 The Making of Modern Britain	HIST5020 近代英国の形成	360	授業
4	HIST4010 A People's History of Britain	HIST4010 英国の民衆の歴史	360	授業

II. 授業内容

No. 1

最終エッセイの提出がありました。授業内において最終課題に向けての説明等が十分になされていたので、安心して取り組むことができました。地理を専攻する一年生向けの授業ということもあり、再度、地理的な視点でのエッセイの書き方や考え方の説明がありました。私自身は地理を勉強するのが高校以来だったので、非常に有益であったと感じます。最終課題については、授業内で取り扱った内容を一つ選び、自分で行うケーススタディ等を交えて2000字のエッセイを書くというトピックでした。自分は地政学に興味があり、さらに卒論で英国の自動車産業を扱おうと思っていたので、主にその2つのトピックを用いて最終課題を書きました。ブルックスでの授業ですが、外大の卒論へ向けた知識をこの課題を通して蓄えることができたのでよかったです。全体的に、この授業を通して科目単体の知識というよりも、様々な観点から応用できる地理的な知識を得ることができたので、次の学期でも地理の授業は取り続けたいと感じました。

No. 2

最終課題の提出がありました。先生から三種類の課題が出され、その中から一つ選ぶという形でした。内容は、紅茶のパッケージ、新聞記事、レシピ動画のどれかの言語学的分析でした。私はレシピ動画のマテリアルで出ていたジェイミー・オリヴァー氏が好きなので、レシピ動画を選択しました。長さは3000字、エッセイの評価が100%という課題だったので、プレッシャーが大きかったです。しかし、先生が参考文献として用いる文献を15-20冊用意してくれていて、それを読んで分析を行うというものだったので、作業自体は時間がかかりましたがスムーズに行えました。長さも文献の量も他の授業と比べて非常に厳しかったことは否定できませんが、zoom上のチュートリアルを通して先生に助けてもらえました。こういった難しい授業もありますが、勇気を出して質問や戸惑わないで助けを呼ぶことは大事だと感じました。全体として、この授業を通して、英語という枠組みを超えた言語学的知識を得ることができました。英語を勉強しに留学をするわけではないが、言語学には触れたいという勇気のある方にはぜひチャレンジしてほしい授業です。私自身は、日本で英語と日本語を教えていたので、そこで得た経験なども授業内で少なからず用いることができ、良い経験になったと感じます。

No. 3

こちらも最終課題の提出がありました。エッセイの形式は、主に授業内で取り扱った18世紀から19世紀の家族関係という枠組みの中から、エッセイクエスチョンが10個用意されていて、その中から一つ選び2000字を書くというものでした。すでに、中間課題で近いことをやっていたので、今回は文字数こそは多かったです。比較的スムーズに書くことができました。ただ、昔の文献を読むことになるので、その時代に対する予備知識がないと読み進めていく上で苦労すると思います。全体として、この授業の歴史上の事件や出来事に注目するのではなく、その時代を生きていた各個人にもっとフォーカスを当てるというアプローチは個人的だったと感じます。私自身は、事件や出来事といった日本で勉強してきた歴史をイメージしていたので、少しミスマッチがあったと感じ、実際にエッセイを書く上でも、あまり興味を持って取り組むことができなかつたと感じます。しかし、個人にフォーカスを当てることで、'イギリス人の生き方'という点についての知識を深めることができたと感じ、それは現代に通じるものがあると感じました。

No. 4

こちらの授業も最終課題の提出がありました。'HIST5020 近代英国の形成'と同様に、エッセイクエスチョンが用意されそこから一つ選び2000字書くというものでした。質問の中には、女性参政権運動、イギリス-アイルランド関係、労働階級などHIST5020に比べてより当時のイベントにフォーカスを当てたものが多かったので、情報収集もしやすかったです。全体的な感想として、こちらの授業も'HIST5020 近代英国の形成'と同様に比較的、当時を生きていた個人に対するフォーカスが強かったと思います。しかし、こちらは当時のイベントもトピックとして取り入れられていたので、日本ですでに得ていた知識を少なからず応用することができました。それに加えて、講義の授業で一方通行的な授業が多いと感じるこちらでの授業ですが、この授業は学生間の交流が多く、より積極的な参加が求められる珍しい授業でした。ディスカッションやアクティビティを通して知識を深めるタイプの方にはオススメできる授業です。

月間報告書 2022年12月分

学籍番号	留学先	オックスフォード・ブルックス大学
氏名	留学期間	2022/09/20～2023/09/19
年次 4年次	留学区分	派遣留学

I. 受講時間数

III. 生活編

一学期目が無事終わりました。

12月はとにかく最終課題の締め切りが一気に来ます。

最後の数週間で合計9000字のエッセイを英語で書くこととなり、寝れない日もあり、カフェインをたくさん取って凌ぐ日もありました。

しかし、こちらの大学で驚いた点として、Exceptional Circumstancesがあることです。

これは、課題の期限を状況に応じて一日から数日間伸ばすことができるシステムです。

自分は今回使うことはありませんでしたが、周りは何人か使っていて、実際に課題の期限を延長していました。

日本であれば、期限が過ぎれば提出することができないということが基本ですが、こちらではこういった柔軟性があることに驚きました。

課題が厳しく、何していいか分からず時間が過ぎてしまうことは誰にも起こり得ますが、もしそういった場合にはこのシステムを使うのも一つの方法だと感じます。

そして、生活面ですが、本格的に冬になり風邪にかかる人や体調を崩す人が増えます。

私も学期が終了してすぐに、体調を崩し、寝たきりになりました。

アドバイスとして、日本からは多すぎると思うくらい風邪薬は持っていくべきです。

イギリスに来たらなぜか分かりませんが、風邪をひくことが多くなります。

体調を崩したらNHSを使うという手もありますが、現地の友人からもいい話を聞かないので、基本的には市販薬で治すことになると思います。

つまり、日本のように気楽にすぐ病院に行くことは恐らくできないので、飲みなれた薬を多く持ってくることをオススメします。

最後に、一学期目が終わると、1月はほぼフリーになります。

2学期間留学であれば、これが旅行をする一番のチャンスになります。

年末年始を避ければ、飛行機もホテルも比較的安く手に入ります。

自分はヨーロッパ数か国とモロッコに旅行する予定です。

イギリス国内旅行もしたいですが、せっかくなので、色々な国にこの休み中は行って、学校外での学びを深めたいと思います。

月間報告書 2023年1月分

学籍番号 留学先 オックスフォード・ブルックス大学
氏名 留学期間 2022/09/20～2023/09/19
年次 4年次 留学区分 派遣留学

I. 受講時間数

No	履修科目(原語名)	履修科目(日本語名)	受講時間数(分)	授業形態
1	GEOG5001 Cities: Geographies of the Urban Experience	GEOG5001 都市: アーバンエクスペリエンスに関する地理学	180	授業

II. 授業内容

No. 1

1月中には最初の講義があり、授業に関する説明を受けました。

内容としては、主に19世紀後半から20世紀初頭から現代までにおける、主にイギリス及び西洋の都市の地理を考察するというもので、都市形態のみならず都市生活といった事象も扱うようです。

また、これ以外にも、都市生活が関わってくることから人種、民族、階級、ジェンダー、セクシュアリティといった幅広い分野との関連性も授業内で探っていくとのことでした。

III. 生活編

1月は30日以降を除いてずっと冬休みだったので、この時間を使って様々な国に旅行に行きました。

この12月から1月にかけての冬の期間で7ヵ国ほど訪れたので、生活編ではそれぞれの国に訪れて感じたことを書きたいと思います。

アイルランド

地理的にイギリスと近く、公用語も英語であることから、比較的旅行しやすい国であると感じました。友人がDCUに留学していたので、ダブリンを訪れましたが、首都であるのにも関わらず治安の良さを非常に感じました。イギリスに留学している立場から、イギリスとアイルランドという元々1つの国であった2つの国の違いを深く感じることができると思うので、近い国ですが、十分に海外旅行をしている雰囲気味わえると思います。

フランス

パリに4日間ほど滞在しましたが、世界中の美が集まる都市であると感じました。世界中の有名なアート作品が集まる場所であり、さらにファッションの中心でもあります。あまりにも見たいものが多かったので、3泊4日では十分に観光することができませんでした。しかし、ルーブル美術館やエッフェル塔、凱旋門といった定番の観光スポットに行くだけでも十分に楽しめると思います。私が行ったときは優しい人が多く、たくさん助けてもらいましたが、自分の周りではパリは治安が悪いという話を多く聞くので、訪れる際には注意してください。個人的に、とてもいい経験をパリではすることができたので、次はもう少し時間を作ってから行きたいと思いました。

ベルギー

EUの本部もある、ブリュッセルに2日間滞在しました。観光スポットは周りの国と比べて少なく感じましたが、本場のワッフルやベルギービールは試す価値があると感じました。比較的コンパクトな街でもあるので、1泊で十分観光できると思います。フランスやオランダに行ったついでに訪れるのがおすすめです。

オランダ

アムステルダムに2日間滞在しました。アンネフランクの家やゴッホ美術館など観光スポットがたくさんあります。公用語が英語ではない国ですが、どこに行ってもとても流暢な英語で接客をしてくれたので、非常にストレスフリーでした。料理もおいしく、特に街中にあるコロッケの自動販売機は安くて美味しかったので、滞在中何度も行きました。1泊2日では明らかに足りなかったので、また機会があれば訪れたいと思います。

モロッコ

イスラムの世界とアフリカ系の世界が混ざっている国で、今まで訪れたどの国とも違う雰囲気がありました。ツアーで砂漠に行き、ラクダに乗ることもでき、ヨーロッパ旅行の間に行ったこともあり、非常に新鮮な経験ができたと感じます。ただ、マラケシュのメディナの旧市街を歩いていたときに恐喝に遭い、持っていた現金を全て取られてしまいました。現金は海外旅行保険でも保証外となり、さらに現金主義の国であるモロッコでは、盗まれてしまったら、ほとんど活動できないこととなります。治安は良いとは言えない国なので、個人ではなく、ツアーで行くことを強くおすすめします。

スペイン

マドリードとバルセロナに行きました。どちらも同じ国にある都市ですが、気候も違い、さらにバルセロナではカタルーニャ語が喋られているなど、違いを多く感じました。7ヵ国旅行した中でも、個人的にスペイン料理が一番好きでした。人もとにかく優しく、また時間があれば訪れたいと感じました。

イタリア

ローマ、ミラノ、ヴェネツィアに行きました。ローマとミラノは行った他の国に比べると観光スポットが少なく感じましたが、ヴェネツィアは非常に美しかったです。ヴェネツィアには多くの島があり、基本的には船を使っての移動になりますが、船から見える景色がとにかく綺麗でした。また、ヴェネツィアは全体が観光地なので、観光客に優しい人が多く、治安も比較的良かったです。ゆっくりヴェネツィア観光するのであれば、2日以上欲しいと感じました。

月間報告書 2023年2月分

学籍番号 留学先 オックスフォード・ブルックス大学
 氏名 留学期間 2022/09/20～2023/09/19
 年次 4年次 留学区分 派遣留学

I. 受講時間数

No	履修科目(原語名)	履修科目(日本語名)	受講時間数(分)	授業形態
1	GEOG5001 Cities: Geographies of the Urban Experience	GEOG5001 都市: アーバンエクスペリエンスに関する地理学	720	授業
2	SOCI5007 Race, Ethnicity and Inequality	SOCI5007 人種・エスニシティ・不平等	480	授業
3	LANG5005 Language, Culture and Globalisation	LANG5005 言語・文化・グローバル化	480	授業
4	MARK4007 Creativity for Marketing	MARK4007 マーケティングのためのクリエイティビティ	480	授業

II. 授業内容

No. 1

今月も主に、都市を構成する要素についてこの授業では学びました。

イギリスに関するコンテキストが主に扱われることが多かったですが、災害から復活した街の例として東京の例なども登場しました。

一言で都市を見るといっても、建築様式から、大戦後の労働力不足から来た移民が作り出した街並みなど、触れられる観点は様々です。

地理学的観点から都市を考察すると、歴史や環境問題、さらには建築といった面からも考察ができるので、より広い視野で都市を構成する要素について考えることができます。

また、中間課題についての説明もありました。

珍しく、学生が課題の方式を選ぶことができるという形を取っており、アンケートでグループプレゼンテーションかエッセイかを各個人が選ぶことができます。

他の学生に聞いたところ、ほとんどの人がエッセイを選ぶようです。

また、中間課題の内容は、都市再生計画についてプレゼンテーションかエッセイで表現するというものです。

イギリスのみならず世界中の例を使えるということだったので、より多くの選択肢が与えられています。

No. 2

社会学の授業で主に差別の問題について扱います。

一時間のレクチャーの後に、一時間のセミナーを行うという形の授業です。

レクチャーでは、予習で読んだ文献の確認及び追加の情報を確認し、その上で、セミナーで他の学生とディスカッションを行うというものです。

人種差別といった問題は非常に話しにくい問題ではありますが、先生もこの授業はオープンにディスカッションできる場にしようと言っていました。

授業内容としては、人種のみならず女性差別といった内容を今まで扱ってきました。

差別という点にのみ焦点を当てるのではなく、個人のアイデンティティがどのように構成されるのか、また、例えば、新しい国にどのように適合していくのかといった差別以前の根本にある事象についての確認を行いました。

イギリスは移民が多く、旧コモンウェルス諸国からの移民のみならず、他の多くの国からの移民を受け入れ、またそれに反発する運動が多く行われてきた国です。

最近では、BREXITが行われ、この目的の一つとしてもやはり移民を管理するという点が挙げられていました。

こういった複雑な環境を持つ国で、こういった問題に触れられるのは貴重な経験だと思うので、多くのことを学べると思います。

No. 3

言語学の授業で、この授業は、主に「リンガ・フランカ」として発展してきた英語という言語について焦点を当てます。

今まで扱ってきた内容としては、英語の起源、初期近代英語、Standard Englishやアクセントなどについて学びました。

イギリスでの授業ですが、シンガポールや香港、インドなどで話されている英語についてのコンテキストも多く出てきます。

イギリスで発展し、世界に広がった言語である英語について再度歴史等を確認できたので、外大で学んでいた言語学の知識も使うことができていると感じます。

授業形態としては、2時間のレクチャーですが、比較的少人数かつ先生が非常に会話をするのが好きなので、一方通行の授業ではなく、学生と先生との交流が盛んに行われている授業だと感じます。

自分が取っている授業では唯一留学生が複数いる授業で、先生もそこを理解してペースに合わせて進めてくれているので楽に授業を受けることができます。

さらに、グループワークも多くあるので、学んだことを学生間で再度確認する時間もしっかりと作られているという印象を受けます。

No. 4

マーケティングの授業で、主にマーケティングという部門におけるクリエイティビティという点に焦点が当たります。

授業形態はブルックスでは珍しく、ワークショップという形態になっており、実際にグループワークを行い積極的な意見交換及び作品を作って授業内で発表するといったことが行われます。

授業内容としては、マーケティングのどの分野でクリエイティビティが用いられるかということや、マーケティングミックスについての確認、及び実際の広告やキャンペーンを用いた分析及び各個人の意見交換を今まで行いました。

マーケティングを本格的に学ぶのは今回が初めてで、最終課題では実際にMarketing Artefactを作成し提出することになっているので緊張していますが、一年生向けの4000番台の授業ということもあり、課題やマーケティング的思考についての説明が授業内でしっかり説明されているので、思っていたよりは安心して取り組むことができそうです。

比較的、マーケティングの知識があまりなくても取りやすい授業ではあるという印象を受けました。

月間報告書 2023年2月分

学籍番号	留学先	オックスフォード・ブルックス大学
氏名	留学期間	2022/09/20～2023/09/19
年次 4年次	留学区分	派遣留学

I. 受講時間数

III. 生活編

今月は冬季休暇が終わり、二学期目が始まりました。

しかし、同時にそこら中でストライキが始まり、学校でもストライキが大規模に行われました。

聞いた話によると、UCUという団体に所属の先生が基本的にストライキを行い、所属していない先生はストライキを行わないようです。

ストライキを行う先生でも、事前に録画した授業をアップロードするなど、対応にも違いが見られました。

また、学校のみならず公共交通機関などでもストライキが行われているので、日本では考えられないことが日々起きています。

'Cost of living crisis' と言われているように、物価上昇が非常に顕著で、生活が厳しいと言っている友人も複数人いました。

しかし、こういったネガティブなことばかりではなく、良いこともありました。

新学期が始まったと同時に、また新しい留学生が大学に来たので、人間関係を広げることができました。

また私生活面では、今月はロンドンに三回行きました。

自分の好きなロンドン生まれのアーティストであるTohjiのライブがロンドンで行われたので、行きました。

日本人のアーティストのライブでしたが、日本人のみならず現地の人も多く来ていたので、改めてイギリスでも日本の文化が浸透しているということを実感しました。

さらに、外大の友人がロンドンで短期留学を始めたので、一緒にロンドン観光にも行きました。

ロンドンほとんど観光したつもりでしたが、グリニッジ天文台などまだまだ見れていないところに行くことができました。

春が近づき、イメージとは異なり晴れの日が続くイギリスですが、学期が始まったので、だらけずに計画的に勉強や課題に取り組んでいきたいです。

月間報告書 2023年3月分

学籍番号 留学先 オックスフォード・ブルックス大学
氏名 留学期間 2022/09/20~2023/09/19
年次 4年次 留学区分 派遣留学

I. 受講時間数

No	履修科目(原語名)	履修科目(日本語名)	受講時間数(分)	授業形態
1	GE065001 Cities: Geographies of the Urban Experience	GE065001 都市: アーバンエクスペリエンスに関する地理学	720	授業
2	SOCI5007 Race, Ethnicity and Inequality	SOCI5007 人種・エスニシティ・不平等	900	授業
3	LANG5005 Language, Culture and Globalisation	LANG5005 言語・文化・グローバルゼーション	600	授業
4	MARK4007 Creativity for Marketing	MARK4007 マーケティングのためのクリエイティビティ	600	授業

II. 授業内容

No. 1

今月は中間課題の提出がありました。

エッセイのトピックとしては、都市再生計画についてのケーススタディを行うというものでした。

世界中のどの都市を選ぶことも可能で、経済的、文化的など様々な観点からの都市再生をケーススタディとして選ぶことができるので、文字数は2000字と他の科目と比べると多いですが、非常に自由度の高いエッセイでした。

自分は、ちょうど今月で授業で扱っていたジェントリフィケーションとインナーシティ問題を扱えると思ったので、ロンドンのドックランズを選びました。

実際に、ロンドンを訪れたときに、近辺との雰囲気の違いが気になっていたため、課題を通してリサーチすることができて、非常に楽しんで書くことができました。

文献を読み進めると、ネオリベリズムといったサッチャー政権下の方針が色濃く反映されていることを知ることができ、卒論でもサッチャリズムについて触れたいと思っていたので、この機会を使って触れることができ良かったです。

No. 2

こちらの授業も今月は中間課題の提出がありました。

エッセイクエストションがいくつか用意されている中から、一つを選んでエッセイを書くという方式を取っていました。

自分は「イギリスの労働市場における人種による分裂を説明しなさい」というトピックを選択しました。

授業内で、イギリスでは特に第二次世界大戦後に労働力不足を解消するために、移民の労働力に少なからず頼っていたことなどを扱い、さらに、人種によって収入などに大きな差があることも扱いました。

こういったことをベースに、文献を読み進めて、1500字のエッセイを書きました。

理論を選んでから、そこを基盤に、リサーチした内容を書きなさいといったルールが課されていましたが、こういったルールのおかげで内容的にまとまったエッセイを書けたと思います。

この授業は他の授業と異なり、エッセイは中間のみで、最終課題は試験になるので、気を引き締めて頑張りたいです。

No. 3

今月は、ヒップホップや日本における英語教育など、言語学的に見て自分がかかなり興味を持てる授業内容でした。

毎回、英語の異なる内容や歴史にフォーカスを当てている授業ですが、一貫してあるアイデアとしては、やはり英語という言語の持つパワーという部分です。

これは、植民地主義などから構築された力関係、さらに、今日の国際化が起こっている中でも、未だに英語が強い力を持っている理由をこういった異なるトピックを見ながら探ることがこの授業の大きなトピックです。

今月、唯一中間課題の提出が無かったこの授業ですが、イースター休暇明けにグループプレゼンテーションがあります。

すでにグループ作成も終わっている段階なので、イースター中もミーティングなどを通して完成まで持っていくことになります。

No. 4

こちらの授業も今月は中間課題の提出がありました。

エッセイの文字数は1500字で、エッセイトピックは「マーケティングキャンペーンを作る上でのクリエイティビティの役割とは何でしょう」というものでした。

かなり漠然としたトピックではありますが、4PやSTPといった授業内で取り扱った事象を使いながら、さらに広告代理店におけるクリエイティビティなどフォーカスを絞ることも可能だったので、自分の中でのトピックを決めてしまえば比較的スムーズに書き進めることができました。

しかし、この課題は評価の全体の20%ほどしか占めていないので、授業内では最終課題についての説明がメインでした。

最終課題で作成するMarketing Artefactはブランドや商品の一つを選び、動画やポスターなど、どの形でもいいのでクリエイティブな広告を実際に自分で作成するというもので、その作成に向けたワークショップを授業で行いました。

III. 生活編

今月は中間課題の提出が多く、先月と比べるとリラックスすることはできませんでした。

旅行はしなかったものの、オックスフォードで友人とパブやクラブに行き行って遊ぶことができたので、イギリスらしい生活を送ることができました。

今月は特に時間の流れが早いと感じましたが、イギリス生活も残り短いので、悔いの内容にしたいことは積極的にしていきたいと思うようになりました。

4月1日からはイースター休暇が始まり、2週間ほど学校が休みになります。

旅行をしようと考えていましたが、休暇明けに一気に課題の提出が迫ってくるので、課題に集中しようと考えています。

月間報告書 2023年3月分

学籍番号

留学先 オックスフォード・ブルックス大学

氏名

留学期間 2022/09/20～2023/09/19

年次 4年次

留学区分 派遣留学

I. 受講時間数

しかし、この生活も残り短いので、楽しんで過ごしていきたいと思っています。

月間報告書 2023年4月分

学籍番号 留学先 オックスフォード・ブルックス大学
 氏名 留学期間 2022/09/20～2023/09/19
 年次 4年次 留学区分 派遣留学

I. 受講時間数

No	履修科目(原語名)	履修科目(日本語名)	受講時間数(分)	授業形態
1	GEOG5001 Cities: Geographies of the Urban Experience	GEOG5001 都市: アーバンエクスペリエンスに関する地理学	360	授業
2	SOCI5007 Race, Ethnicity and Inequality	SOCI5007 人種・エスニシティ・不平等	360	授業
3	LANG5005 Language, Culture and Globalisation	LANG5005 言語・文化・グローバリゼーション	240	授業
4	MARK4007 Creativity for Marketing	MARK4007 マーケティングのためのクリエイティビティ	240	授業

II. 授業内容

No. 1

今月の授業では、デモや暴動と都市形成の関係性及びエッセイワークショップが行われました。

前者に関しては、ツイッター革命とも呼ばれるアラブの春について、また、2011年8月にロンドン北部のトッテナムで、黒人男性のマーク・ドゥーガンが警察官に射殺されたことから英国中で始まった暴動について学びました。

また、後者に関しては、エッセイの内容について先生と相談するワークショップでした。

数ある質問から一つ選んでエッセイを書くというのですが、私は「ジェントリフィケーションが良いか悪いかを実例を用いて説明しなさい」という質問を選択しました。

自分は、ロンドンと東京のジェントリフィケーションの比較を行い、意見を述べる予定です。

授業の先生が今年の夏に東京に来て、東京の住宅事情についての調査を行うとおっしゃっていたので、エッセイの内容に期待していると言われてしまい、緊張していました。

エッセイについては提出は済んでいますが、5月中も授業があるので、詳細については次回書きたいと思います。

全体的な感想としては、地理の授業は留学生がほとんどいなく、この授業でも留学生は自分一人でしたが、友人を作ることができ、積極的にディスカッション等に参加することができました。

地理に関してはまだまだ初心者ですが、中学生の時から一番好きな科目だったので、改めて勉強できてよかったですと感じます。

No. 2

今月の授業では、英米の人種差別の歴史や各国の移民制度について学びました。

前者に関しては、英国のNHSにおいての差別や米国で発生したモンゴメリーバスボイコット事件について学びました。

後者に関しては、フランスの共和制、ドイツのエスニックモデル、イギリスの多元主義モデルがどのようなアプローチで移民に接するかを学びました。

多くの授業の最終課題がエッセイで5月5日にはほとんど終わる予定ですが、こちらの授業に関しては最終試験があるので、5月の後半まで引き続き勉強し続けなくてはなりません。

過去問がネットで公開されているので、それをベースに勉強を進めていく予定です。

中間エッセイの結果が返ってきましたが、非常に厳しい採点だったので、最終試験に向けてしっかりと勉強しなくてはならないと実感しました。

最終試験に関しては、選択式ではなく、記述式で、質問を二つ選択し、合計1500字を2時間で仕上げるといいます。

しっかりと準備をして挑まないと、2時間ではとても終わらないと感じるので、しっかりと対策していきます。

No. 3

今月は、中間課題であったグループプレゼンテーションがありました。

自分がリーダーとなり、グループをまとめましたが、当日までミスコミュニケーション等もあり非常に苦労しましたが、無事プレゼンテーションを行うことができました。

外大でも多くプレゼンテーションを行っていたので、今回も自分は比較的落ち着きながらプレゼンテーションを行うことができました。

あまりイギリスではプレゼンテーションは行わないので、外大の授業で学んだ多くのことを活かすことができる機会がやっと出てきて嬉しかったです。

プレゼンテーションは各自で授業内容に沿って選ぶというもので、自分たちはColonialismとPost-colonialismと英語の関係性を探りました。

3人で行ったプレゼンテーションですが、各自がこの大きなテーマに沿って、さらに個人のテーマを選んで発表するという形式を自分のグループは取り、発表に挑みました。

自分はヒップホップとPost-colonialismの関係性を探りましたが、先生も非常に楽しんで発表を聞いてくださり、良い結果を残すことができました。

まだ、最終課題が残っているので、最終課題については次回書きたいと思います。

No. 4

今月もマーケティングの授業は最終課題のArtefact作成に向けてワークショップが行われました。

比較的少人数なワークショップなので、先生が一人一人どのようなArtefactを作成するか確認してくれていたのが、安心して相談することができました。

マーケティング上の問題を発見し、実際に広告を作成するというクリエイティビティが求められる最終課題なので、ワークショップ内で行われたアクティビティはアイデア作りに非常に生きていますと感じます。

エッセイでは基本的に文献を多く読み、それをベースに書くという形式ですが、この授業の最終課題は自分の作品及びその分析がメインになるので、まさにクリエイティビティが求められます。

最終課題については、次回詳細に書きたいと思います。

月間報告書 2023年4月分

学籍番号	留学先	オックスフォード・ブルックス大学
氏名	留学期間	2022/09/20~2023/09/19
年次 4年次	留学区分	派遣留学

I. 受講時間数

III. 生活編

今月は、イースターホリデーがあり、2週間ほど学校が休みになりました。

最終課題をする時間に充てようと考えていたので、海外旅行はせずに、エッセイをなるべく終わらせることにしました。

前学期の失敗として学期末まで課題を溜めてしまったことが挙げられるので、その反省を生かして有意義な時間を過ごせたと感じます。

しかし、勉強ばかりではなく、息抜きに友人と食事をするなど比較的バランスの良い休暇だったと思います。

イースター後には、こちらでできた友人と残された時間も少ないので、思い出作りにアイルランドへ旅行しました。

ダブリンに行くのは2回目でしたが、やはり、人も優しく非常に美しい街だということを再度実感することができました。

また、お酒、特にビールとウィスキーが有名な国なので、お酒を飲むのが好きな方は飛行機代も比較的手ごろなのでイギリス留学中にアイルランドに行ってみてください。

旅行中に、お酒が入っていたこともあります。こちらでできた友人と残された時間が少ないことを実感して泣いてしまいましたが、まだ最後ではないので、残り少ない時間もしっかりと楽しんでいきたいです。

5月は最終課題と試験と忙しくなりますが、日本へ帰る日も迫っているので、せっかく来れたイギリスで良い時間を過ごしていきたいです。

月間報告書 2023年5月分

学籍番号 留学先 オックスフォード・ブルックス大学
 氏名 留学期間 2022/09/20～2023/09/19
 年次 4年次 留学区分 派遣留学

I. 受講時間数

No	履修科目(原語名)	履修科目(日本語名)	受講時間数(分)	授業形態
1	GEOG5001 Cities: Geographies of the Urban Experience	GEOG5001 都市: アーバンエクスペリエンスに関する地理学	180	授業
2	SOCI5007 Race, Ethnicity and Inequality	SOCI5007 人種・エスニシティ・不平等	300	授業
3	LANG5005 Language, Culture and Globalisation	LANG5005 言語・文化・グローバルゼーション	120	授業
4	MARK4007 Creativity for Marketing	MARK4007 マーケティングのためのクリエイティビティ	120	授業

II. 授業内容

No. 1

GEOG5001の最終課題はエッセイ形式で、全体の成績の60%を占めるものでした。

内容としては、都市形成、例えば持続可能性やジェントリフィケーションといった事柄についての質問が4つ出され、その中から一つ選び2500字書くというものでした。

私は、「実例をいくつか参考にし、ジェントリフィケーションが果たして都市にとって良いものであるかを議論しなさい」という質問を選択しました。

授業内においては、アメリカやイギリスにおけるジェントリフィケーションの例を多く取り扱っていたので、比較的取り組みやすい環境ではありました。

また、最終授業において、先生が一人一人の選んだ質問を確認し、どのような内容に取り組んでいるのか先生に伝える機会があり、どのような構成で書いたらいいかというアドバイスをいただけたので、安心して取り組めた課題でした。

しかし、不満点として、ストライキの影響が強く、中間課題の結果も未だに公開されておらず、最終課題も評価されるか分からないという返答があったので、少し不安です。

全体的な感想としては、クラスの雰囲気も良く、イギリスで地理を勉強したことで、ロンドンやその他のイギリスの都市がどのような問題に直面し、どのような都市形成を行ってきたのかということ学べたことが自分にとって非常に有意義なものになったと感じます。

留学をして地理を選択する人はかなり少ないと思いますが、少しでも興味があるのであればおすすめしたい科目です。

No. 2

SOCI5007の最終課題は試験で、5月後半に試験があり、全体の成績の50%を占めるものでした。

制限時間2時間で、問い2つを選び各750字、計1500字を書くというものです。

内容はSection AとBで分かれており、Aの方はより理論に基づいた説明を、Bは理論を用いながらも実例も提示して説明しなさいという説明を受けました。

両方のセクションにおいても、主な内容は授業のタイトルにもあるように、不平等や差別といったことに関するもので、人種化や白人至上主義、さらには医療や労働市場、組織的差別といった観点に関する質問が出されました。

先生から過去3年分の過去問が配られたので、5月5日に他の科目の課題提出が終わった後数週間とはにかく、過去問を解くことに時間を使いました。

先生が言っていた通り、過去問と全く同じ問題が一部出されていたので、試験当日はスムーズに取り組むことができました。

授業全体の感想としては、非常に難易度が高い授業で、留学中に受けた中でも一番難しい授業だと感じました。

中間課題でも厳しい採点をもらい、挫折しそうにもなりましたが、最終試験を無事終了することができました。

2年生向けの授業ということもあり、既に多くの理論や社会学的知識を持った学生と授業を受けることになるので、難しかったです。

イギリスで初めて試験を受けることになりましたが、他の留学生も試験のある科目は避けていたので、やはりその難しさを感じさせられました。

しかし、内容的なことになると、人種差別といった見えない部分にもある大きな問題を改めて学術的なアプローチで挑んだことは、この国際化が進む世界の中で今後役立つと感じました。

No. 3

LANG5005の最終課題はエッセイ形式で、全体の成績の70%を占めるものでした。

内容としては、主に英語が世界に与えている影響力という観点に沿ったものが多く、7つの質問から一つを選び2500字、最低13冊の参考文献を持ちいて書くというものでした。

私は、「ヒップホップを題材に、様々な事例を用いて、支配的なイデオロギーへの抵抗を反映し、地元の言語使用やアイデンティティを代弁するツールとしての英語という点について分析しなさい」という質問を選びました。

私は、元々日本におけるヒップホップ文化に興味を持っており、授業内でも先生が日本のヒップホップ文化や曲をいくつか紹介していたので、そこから興味を持ちました。

実際に趣味としてヒップホップを広く聴いているので、英語の影響力及び西洋の支配的なイデオロギーを示している歌詞をエッセイ内で英訳、また、韻を踏んでいる部分であれば、音訳をし、そこから分析を始めました。

作業量は非常に多かったのですが、結果として、今まで研究してみたかった部分を深くこのエッセイで表現できることができ、満足度は非常に高かったです。

授業の全体的な感想としては、先生も非常にフレンドリーで、クラス内でも多くの友人ができました。

とにかく、先生との関係のみならず学生間関係についても心配りをしてくれる先生で、非常にいい気持ちで学びを深めることができました。

また、最終エッセイのチュートリアル中に、先生から「時間と機会があればぜひ一緒にジャーナルを出しましょう」と一声いただき、今後もこの授業で書いたことが役立つと感じます。

この授業を通して、自分の中にある言語学に対する考えが変わり、今後より深く研究したいと思う学問になりました。教えていただいた先生には感謝の言葉しかありません。

No. 4

月間報告書 2023年5月分

学籍番号	留学先	オックスフォード・ブルックス大学
氏名	留学期間	2022/09/20～2023/09/19
年次	留学区分	派遣留学

I. 受講時間数

MARK4007の最終課題は、実際に広告を作成し、その広告の分析を行うというもので、全体の成績の80%を占めるものでした。

文字数は、1500字で、広告はYouTubeの動画、Instagramの広告、ポスター、街角広告など製品を宣伝するものであれば何でも良いというものでした。

作業の手順としては、まず、ブランドを選び、そのブランド及び商品が面している問題を見つけることから始め、自分の制作した広告がどのようにこの問題を解決するのかということ进行分析するという手順で行いました。

多くの書物を読んで、その情報を基に議論を進める他の科目とは明らかに異なり、自分の創造性を非常に求められた課題でした。

実際に分析や広告を作成している時間よりも、圧倒的に考えをまとめる時間が長くかかったので、もしこの授業を履修するのであれば、早めに最終課題の考えをまとめておく方が良いと思います。

全体的な授業の感想として、ワークショップ形式を取っていること、また、創造性が強く求められるという点から、OBUで取れる他の授業とは明らかに異質だったと感じます。

ワークショップでは他の学生の作品が授業内でもシェアされていたので、常に刺激を受けることができました。

言語を主に学んでいる外大生であれば、広告にそういった観点ももちろん取り入れることはできるので、少しでもマーケティングに興味があれば、履修してみてください。

III. 生活編

約9か月の長いようで短かったイギリス留学も終わり、無事日本に帰国しました。

5月は、最後の月だったので、試験終了後に友だちとたくさんパーティーをしました。

こちらで仲良くなった友人との別れが近づいていることを実感し、悲しい一か月でもありましたが、最後の最後に多くの思い出を作ることができました。

遠く離れたオックスフォードで勉強をし、生活を共にした中で生まれた絆は今までできた人間関係よりも強いものであると実感しました。

イギリスという地で暮らしていましたが、世界各国から来た様々なバックグラウンドを持つ人と交流できたことは今後の人生においても、役立つと感じます。

また、日本に実際に来る友人も複数人いるので、オックスフォードでできた人間関係は今後も長く続くと思います。

旅行に関しては、ロンドン、またイングランドの南にあるSeven SistersやDoverに行きました。

イングランド南部はリゾート地が多く、イギリスの違った一面を見れると思います。

ロンドンからであれば、比較的アクセスも良いので、ぜひ機会があれば行ってみてください。

留学全体の感想として、遠く日本から見るイギリスと実際に住むイギリスは違うと思います。

ステレオタイプを払拭できたという部分においても、この留学は非常に有意義でした。

日本から留学となると、アメリカなどと比較してイギリスを選択する人はごく限られてくると思います。

正直、IELTS for UKVIを取得しなくてはならないなど、準備においても他の留学先と比較して大変です。

しかし、そこまでしてでも行く価値、住む価値のある国であると私は断言でき、そういったことからイギリス留学を諦めてしまうのはもったいないと感じます。

確かに、イギリス英語や文化に馴染みがない日本人が大多数だと思いますが、だからこそ、新しい経験ができると思います。

また、ヨーロッパにあるという点を考慮すると、他の英語が公用語の国と比べて、他の国への旅行のしやすさという点においても有利で、実際に足を運んで多くの国の文化に触れやすい環境でもあります。

同じ島国であることから、国民性といった点も日本人との共通点が多い国でもあり、様々な発見がイギリス留学ではできると思います。

最後に、今まで読んでいただきありがとうございました。

ブルックスに留学する人のみならず、イギリスに留学をする人のお役に立てれば幸いです。